

かお・人・interview

2021年8月27日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
菊池川河川事務所 所長

小田 禎彦氏

yoshihiko ODA

菊池川は全長約71キロ、流域内には約20万人が住む。川の恵みは豊かな食文化を育み、米、果物の特産品はブランド化になるほど。だが、同時に梅雨前線の河川氾濫に悩まされてきた。人口が温泉地（菊池・山鹿・玉名市など）に集中しているため、その被害は甚大なもの。そこで洪水調整のために竜門ダムが建設され、多目的ダムとして地域経済の発展に貢献している。菊池川河川事務所は、菊池川の治水対策、ダムの維持管理を担う。今後の具体的な取り組み、課題などについて小田所長に話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

気候変動の影響によって、全国的に洪水発生の危険度が高まっており、毎年のようにこれまでの記録を上回る規模の洪水災害が発生しています。これまでに河川管理者が主体となって、堤防整備や河道掘削等の治水対策を実施してきていますが、降雨量の増加等の気候変動による影響が、河川整備の進捗を上回るようになっていきます。菊池川も例外ではなく、これまでに整備した堤防等の施設能力を上回るような洪水の発生が懸念されます。



▲昭和57年7月出水（山鹿市）

これに対応するため、河川管理者による事前防災対策を加速させると同時に、流域の関係者全員参加で被害を軽減させていく「流域治水」に取り組む必要があります。菊池川河川事務所を開設し80年という歴史の中で、これまで築いてきた流域の皆様との連携を更に強化し、洪水被害を最小限にとどめるよう取り組んでいきたい。災害リスクが軽減されることは、地域経済の発展にもつながると考えています。

Q熊本県や記憶に残る仕事

熊本に勤務するのは、約20年ぶりとなりますが、熊本地震のときからかわりがあります。当時は九州地方整備局の河川部で、災害担当をしていました。地震発生後、資材調達などさまざまな問題をどうすれば解決できるか…時間を忘れて奔走していたのを覚えています。災害担当から企画部に異動したときも、熊本で業界対応に追われていました。災害発生から復旧まで、携わった貴重な経験は一生忘れないと思います。

竜門ダムは多目的ダムとして、地域経済の発展
流域の安全安心に大きく貢献しています。
近年は想定を超える豪雨が多発し
流域の関係者全員参加で、被害を軽減させていく
「流域治水」に取り組む必要があります。

貴重な経験といえば、海外プロジェクトの参加も記憶に残っています。平成23年8月から12月にかけてタイを襲った大洪水は、大規模な浸水被害をもたらしました。日本は排水ポンプ車派遣を決定。国際緊急援助隊専門チームの一員に選ばれ、一ヵ月ほどタイで活動しました。このときの活動で皇居に招かれました。人生の中で陛下にご接見を賜ることなど考えたことがなかったので、感動したのを覚えています。

Q 当事務所の紹介

菊池川流域において、大きなインパクトを与えたのは竜門ダムの建設です。竜門ダムは洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水、都市用水の補給を目的とした多目的ダムであり、1964年の予備調査開始から約40年の歳月をかけ2002年に運用開始しました。



▲水を運搬するトラック

ダム完成以前の農業は、地下水をくみ上げトラックでタンクを運搬するという不便を強いられていましたが、ダム完成後は安定的な水供給が可能になり農家の方々からは大変感謝されています。治水効果においても、昨年7月豪雨では、ダム運用開始以来、最高の貯水量を記録し、ダムの洪水調節の効果を発揮させ、菊池市内の浸水を防ぐことができました。

Q 今年度の事業概要（簡略）について

菊池川の河川整備事業としては、2011年に策定した「菊池川水系河川整備計画」に基づき、下流部の玉名市内の高潮堤防整備、中流部の和木町や山鹿市では河道掘削、引堤工事を進めています。



▲2012年7月合志川

特に、2012年7月の九州北部豪雨では支川の合志川が氾濫し、植木温泉を含む浸水範囲232ha、浸水戸数103戸という甚大な被害が発生したことから、これらの対策として河川の阻害要因となっていた堰改築2基、橋梁架替1基の整備を実施しており、2019年には平島堰が完成しました。現在は、山城堰の改築工事と舟島橋の上部工工事を施工中であり、2022年度の完成を目指しています。また、菊池川には樋門・樋管が168施設存在しており老朽化も進んでいます。河川管理施設

の高度化・効率化対策として5か年加速化対策を活用し、人為的な操作を必要としないゲートの無動力化を進めます。

Q地域との連携・協働について

当事務所と地域の方々とは、良好な信頼関係が構築されていると感じています。これまでに、先輩方が地域の声に耳を傾け、どうやったら地域が活性化するのか、河川整備だけではなく背後のまちづくりにも積極的に関わってこられた結果だと言えます。

2017年には、菊池川流域(玉名市・山鹿市・菊池市・和水町)の歴史ストーリー「米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～」が文化庁の「日本遺産」に認定され、「菊池川」自体も構成文化財の1つとして登録されています。

菊池川流域は、古代から現代までの日本の米作り文化の縮図であり、その文化的景観や米作りがもたらした芸能・食文化に出会える稀有な場所であることが評価されています。これをきっかけとして、流域全体がつながり、地域の活性化と持続可能な社会づくりにつなげていけるように地域と連携・協力していきたいと考えています。

また、来年2022年に運用開始20周年を迎える竜門ダムでは「地域に開かれたダム」として、地域の住民代表と菊池市との連携による竜門ダム「ドラゴンキャンプ場」の社会実験がスタートしており、ダム上下流一体で地域活性化につながるよう支援していきます。

Q地域建設業への要望・メッセージ

2016年熊本地震が発生した際には、九州地方整備



▲玉名市高瀬地区の船着き場



▲菊池川と流域に広がる田園風景



▲竜門ダム「ドラゴンキャンプ場」

局の河川部で緑川・白川の堤防復旧を担当し、地元建設業者の活躍を目的に当たりました。その後も企画部では、復旧・復興工事の円滑な施工の確保に万全を期すため、復興係数・復興歩掛を継続させるために熊本県との調整や本省との協議に携わりました。地元建設企業の体制の維持が、多発・激甚化する自然災害への備え、社会インフラの整備に不可欠となっています。地域の守り手としての使命感だけに頼るのではなく、パートナーとして業界の声に真摯に耳を傾け、地域建設業の持続的発展に向け、連携して取り組んでいきます。

Q趣味や健康法について

健康法というわけではありませんが、日頃から歩くよう心がけています。週末には、愛犬の散歩を兼ねて一日7,000歩程度は歩いています。東京にも愛

犬を連れて行きましたので、愛犬とさまざまなスポットをぶらりとめぐり、商店街や街並み、木々に囲まれた公園を堪能しながら街歩きを楽しみました。ここ山鹿市に来て続けており、レトロな街並が残る豊前街道を散策したりしています。

プロフィール



出身地：福岡県久留米市
生年月日：1966年4月28日(55才)
H17年4月 川内川河川事務所 調査課 監督官
H20年4月 遠賀川河川事務所 建設専門官
H25年5月 遠賀川河川事務所 工務課 課長
H26年9月 九州地方整備局 河川部河川工事課 課長補佐

H29年4月 九州地方整備局企画部 技術管理課 課長補佐
H31年4月 水管理・国土保全局 河川環境課 課長補佐
R3年4月 現職